

平成30年度学校評価実施計画

学校名	大分県立別府支援学校鶴見校
-----	---------------

前年度評価結果の概要	<p>1 教育・福祉・労働・医療等関係機関との連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の障がいの状態の実態把握についてケース会議やリハビリ見学をとおして連携を深めることができた。今後も一層連携を深められるよう検討する。 ・生徒の卒業後の社会自立に向けて、移行支援会議等の充実の必要性がわかった。今後は各種事業所や外部組織ともより一層の連携を図り、情報を収集して保護者を含めた学校全体に広めていく必要がある。 <p>2 災害等緊急時対策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応として別府発達医療センターと避難方法や生徒の引き渡しについて協議を重ね、合同訓練等実施してきた。今後も両者が協議していく必要がある。 ・避難訓練や緊急時の対応訓練をとおして、防災意識を高められてきている。防災について、日常的に防災教育を計画し、幼児児童生徒にどのように防災意識を持たせるかという視点での学習や取り組みが期待される。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育実践をとおし、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するとともに、豊かな人間性を育み自立と社会参加をめざす幼児児童生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒が自己の障がいの状態を改善・克服することができるよう、教育・福祉・医療等関係機関等との具体的な連携に取り組む。 ・火山災害や地震等の災害時、学校生活における緊急時において円滑に幼児児童生徒の生命を守るよう、防災・安全教育の充実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児児童生徒理解と対応のための医療・福祉・教育等関係機関との連携の強化 ○ 防災・安全教育の充実

※ PL：プロジェクトリーダー、SL：サブリーダー

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	PL SL
医療・福祉・教育等関係機関との連携の強化	幼児児童生徒一人一人のより良い生活の実現を図るため、利用する医療・福祉・教育等関係機関との連携100%	QOLの向上にむけた医療機関（発達医療センター）、福祉サービス事業所との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及びセンター職員へ、参加を呼びかけて施設見学等を実施する。（夏季休業中実施） ・ケース会議でキャリア教育に関する個々の取組をセンター職員と共通理解を図る。（2・3学期） 	PL：進路指導・支援部主任、進路指導係長 SL：各学部主事
		授業改善にむけた医療機関（発達医療センター）教育諸機関（転出入先の学校、教育センター、各種相談機関等）との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ研修での「ねらい」「教材」を明確にした年間指導計画の整理（1学期中）・・・年間指導計画に教材名、単元ごとのねらいを記載 ・学校公開でのセンター職員の来校人数の増大（2学期） ・・・・H29（23名） H30（30名）30%増 ・リハビリテーション課の職員による授業見学・助言回数（対象生徒の拡大？）の拡大（2・3学期） ・・・・H29（4グループ・対象生徒4人 H30（4グループ・対象生徒8人）100%増 	PL：研究主任 SL：教務主任、各学部主事
防災・安全教育の充実	自然災害時の避難訓練年間3回、緊急時の対応訓練の実施各学部3回実施100%	児童生徒の防災意識を高める環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然災害や状況に応じた避難訓練の実施（学期に1回） ・防災グッズの使用体験、非常食体験等による防災体験、地震や噴火など自然災害の身近な痕跡（言い伝え、昔話等）に触れる学習の実施（学期に1回） 	PL：特別活動・生徒指導主任、防災教育コーディネーター SL：各学部主事
		学校生活における緊急時の対応への環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する全体計画をふまえ、幼児児童生徒の食形態について各クラスに掲示し共通理解を図る。（1学期） ・緊急時対応訓練事例の集約について周知し、訓練計画を立案する。（1学期） ・摂食時や移乗時等、状況に応じた緊急時対応訓練の実施する。（学期に1回） 	PL：保健部主任 SL：各学部主事